

2014 年7月 16 日 久喜市にある東京理科大学から、全面移転
したいとの報告がなされました。以下主な内容を報告します。

東京理科大学 経営学部の久喜キャンパスからの全面移転について

平成 2 6 年 7 月 16 日

学校法人 東京理科大学 理事長 中

根 滋

平成 2 6 年 7 月 9 日の理事会において、平成 2 8 年 4 月より神楽坂キャンパス
へ全面移転することを決定。貴職には多大なご迷惑をおかけし、誠に申し訳な
くお詫び致します。

全面撤退にあたり、跡地の有効利用等については久喜市の意向を尊重し進めたい。

.....

東京理科大学 経営学部の久喜キャンパスの跡地利用について (提案)

1.土地の用途変更について

東京理科大学経営学部(久喜キャンパス)の設立に際し、久喜市から財源補助 30 億円(用地取得費・校舎建築費等)と、道路・水路・上下水道等の周辺整備(整備費 10 億円は久喜市負担)を行っていただきましたが、これまでに本法人が支出した経費(土地建物への投資及び教育研究経費)の累計額は約 124 億円(久喜市負担の 3 倍以上)にもたっています。

久喜キャンパスからの全面撤退にあたっては、これまでに支出した経費(財源は、学生からの授業料、国からの補助金等)を、少しでも回収したいと考えています。

今般、本法人に対して、レットウッド・グループ(株)より久喜キャンパスの跡地購入の申し出がありました。同社は購入後に物流施設を建設(用途変更が必要)する予定であり、本法人としては、売却条件、土地用途等を勘案すると、当該業者に売却することがベストであると考えています。

現在、久喜キャンパスの用途は「学校用地」とされており、このままでは同社への売却を進めることができません。さらに、平成 28 年 4 月以降も売却ができない場合は、学部を存置させずに何らかの形(教育目的)で利用することになると思われますが、久喜市及び本法人の双方にとって最善の選択肢ではないと考えています。

レットウッド・グループ(株)に売却した場合、久喜市には以下のような多大な経済効果をもたらすものと思料しておりますで、是非とも土地の用途変更を検討いただきたく、お願い致します。なお、業者への回答の都合上、平成 26 年 9 月末までに回答くださるよう、併せて、お願い申し上げます。

[久喜市のメリット] (東京理科大学試算)

総投資額 : 役 450 億円 土地代 建築費等

雇用の創出 : 地元に 1500~1800 人の新規採用

固定資産税 : 役 3 億 2 千万円 (年間) 10 年間で 32 億円の税収が見込まれます

その他 : 飲食店、コンビニ等の商業施設のニーズが発生

: 公開公園の設置 緑地化 等

2. 教育基金の設置について

久喜キャンパスの跡地をレットウッド・グループ(株)に売却できた場合には、久喜市に売却代金の一部 5 億円を教育基金として寄付することを考えています。

是非とも将来の人材の育成にお役立ていただきたいと存じます。

以上